

オゾン層保護法に基づく 2022年の割当て運用結果等について

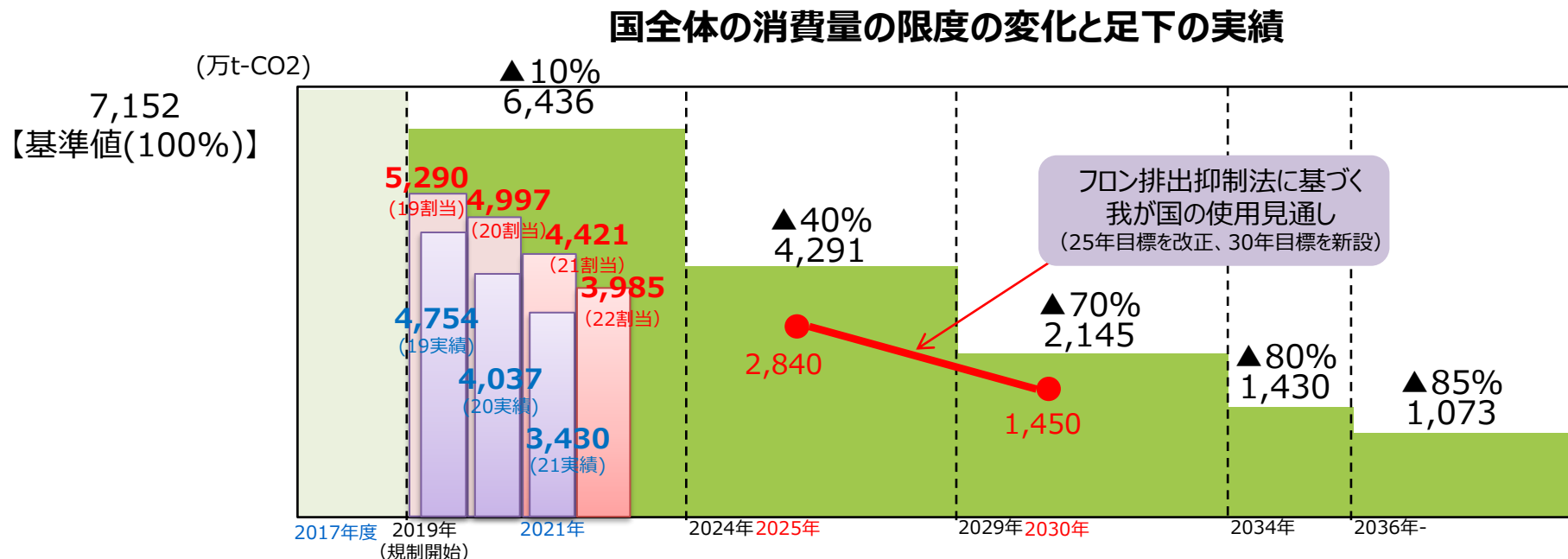
令和5年3月24日
経済産業省 製造産業局
化学物質管理課 オゾン層保護等推進室

オゾン層保護法の運用結果①（消費量の割当て）

- 2022年の消費量の割当ての運用結果（実績はこれを下回る）は、
 - ・基本的運用は、製造事業者 8社、輸入事業者 25社 合計 3,939万t-CO₂
 - ・例外的運用は、製造事業者 3社、輸入事業者 8社 合計 45万t-CO₂

※例外的運用の主な用途は、例外的用途（消火剤、ぜんそく薬噴進剤、原料用途の未反応分（半導体）、試験研究用途等）

- 総計は約3,985万t-CO₂であり、日本の基準値6,436万t-CO₂から38%程度の余裕を持って運用した。

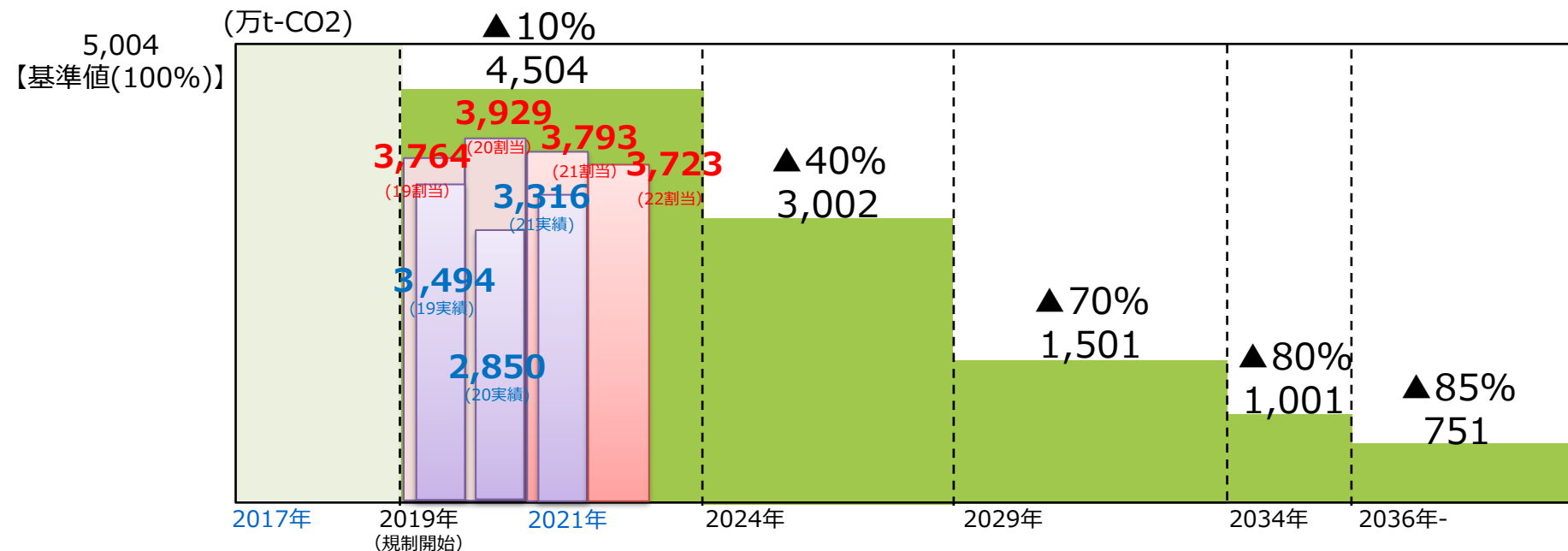


※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

オゾン層保護法の運用結果②（生産量の割当て）

- 2022年の生産量の割当て運用結果（実績はこれを下回る）は、
 - ・基本的運用は、製造事業者 8社 3,706 万t-CO₂
 - ・例外的運用は、製造事業者 3社 18 万t-CO₂
- 総計は、約3,723 万t-CO₂であり、日本の基準値4,504万t-CO₂から17%程度の余裕をもって運用した。

国全体の生産量の限度の変化と足下の実績



※ 基準値：2011-2013年実績の平均値から計算

オゾン層保護法の運用結果③（輸入数量・製造数量の実績）

- 2021年に輸入又は製造を行った者が3者以上の物質のみ実績を公表。
- 輸入されたHFCを種別で見ると、単一冷媒ではR-32が、混合冷媒ではR-410Aが多かった。（実トンベース）

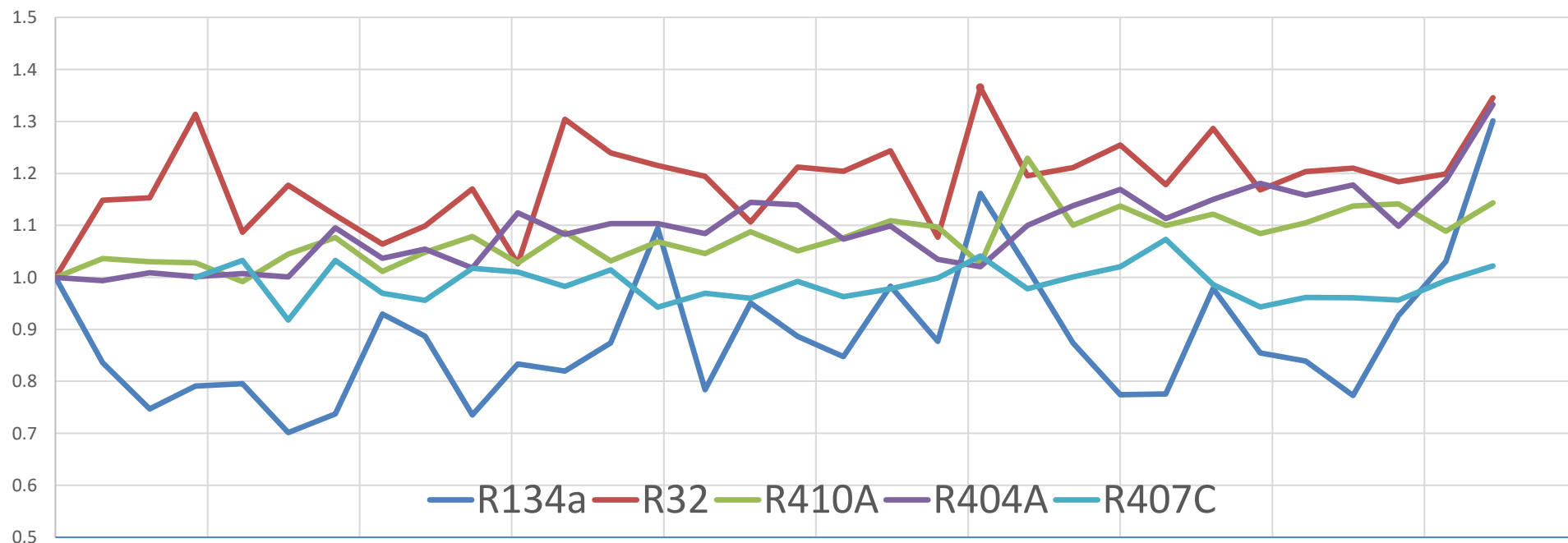
HFC種別の輸入数量実績と製造数量実績（2021規制年度）

HFC種		GWP	輸入数量実績 (実t) (t-CO2)		製造数量実績 (実t) (t-CO2)	
単一 冷媒	R-134a	1,430	1,846	2,640,004	非公表	
	R-227ea	3,320	47	150,275	0	0
	R-32	675	3,991	2,693,659	非公表	
	R-125	3,500	1,324	4,633,977	0	0
	R-143a	4,470	171	764,030	0	0
	R-23	14,800	61	906,455	433	6,415,493
混合 冷媒	R-404A (125,134a,143a)	3,920	1,262	4,950,824	実績報告対象外	
	R-407C (32,125,134a)	1,770	329	582,834	実績報告対象外	
	R-410A (32,125)	2,090	4,614	9,632,048	実績報告対象外	
総計 ※公表できない物質を含む。			15,406	28,865,303	21,505	33,163,724

オゾン層保護法の運用結果（販売価格）

- 2020年7月以降の平均販売価格（末端価格）の推移を見ると、R-134aとR-32の値動きが激しく、R-32は高めに、R-134aは低めに推移。
- 他方、混合冷媒（R-410A、R-404A、R-407C）の価格は比較的安定的に推移。
- 全体的に見ると、販売価格の高騰の傾向は特に見られないが、今後もモニタリングを継続的に実施していく予定。

冷媒販売価格指数（2020年7月を1.0とした平均価格の推移）



2020年7月 2020年10月 2021年1月 2021年4月 2021年8月 2021年11月 2022年2月 2022年6月 2022年9月 2022年12月 2023年3月